

歴史と伝統がいきづくまち 旭

— 未来に広がる新たな街並み —

旭公民館

1 旭地区の概要

旭地区はJR福井駅の東側に位置し、東西約1km、南北約0.8km、西はJR北陸本線、南は足羽川、北は北陸電力福井支店、東は県立高志高校に囲まれた福井市街の中心に位置している。また、ほぼ中央には荒川が北東から南西に流れ、足羽川に注いでいる。

平成18年に福井駅連続立体交差事業および福井駅周辺区画整理事業が完成、平成19年には手寄地区再開発ビルの「アオッサ」がオープン、さらに平成21年には駅東口交通広場が完成し、駅西と一体化した旭地区に生まれ変わっている。そして、令和5年春に開業予定の北陸新幹線福井駅の工事も着々と進められており、今後更なる地区の活性化が期待できる。

また、福井藩の学問所「正義堂」の教師で福井の学問の創始者と言われる「吉田東篁」をはじめ、世界的地震学者の「大森房吉」、国文学の父「芳賀矢一」、未完の陶芸家「塚原芥山」、唯一の本県出身総理大臣「岡田啓介」、2・26事件で殉職した「松尾伝蔵」等々、数多くの偉大な先人を輩出している地区である。

また、400年の昔から火産霊(ほむすび)神社に伝わる県無形民俗文化財の「馬鹿ばやし」、1300年の歴史を誇る白髭神社の「七夜踊り」など、貴重な歴史的文化財を有している。

令和元年9月1日現在、人口は5,392人、世帯数は2,335戸となっている。

2 歴史をたどり、伝統を守る

(1) 旭散歩歴史塾

平成27年に「旭区史」が編纂されたのを契機に、地区の歴史愛好家たちによって結成され、以後「福井学事業」として継続している。月1回のペースで開催され、毎回20名前後の地区民が参加し、楽しく学んでいる。



地元の寺社(白髭神社、北向観音堂など)の見学、地区の偉人に関する講演会(加藤寛治、大森房吉など)、墓所の清掃活動(東山墓地にある吉田東篁の墓)、「松尾伝蔵大佐」献花祭や「岡田啓介」冊子贈呈式への参加など、多彩な内容となっている。

(2) 伝統芸能「馬鹿ばやし」

昭和37年に県無形民俗文化財に指定され、手寄地区にある火産霊神社(通称：秋葉さん)で保存伝承されており、毎年5月の例祭に奉納される。お多福やひよつとこの面をつけ、太鼓や笛に合わせてこっけいな所作するのが特徴で、多くの人に親しまれている。

地元の「馬鹿ばやし保存会」では、後継者育成のために「こども馬鹿ばやし」として地元の小



中学生や園児の出演者を募って練習会を行い、子どもたちは、5月の例祭や秋の「ケヤキわくわくストリート大フェスティバル」で練習の成果を披露している。

3 地域をつなぐ特色ある事業

(1) 荒川水質調査 ～地域連携で環境を学ぶ～

少年教育事業のひとつとして毎年行われているこの事業は、令和元年度で31回を数え、環境・地域連携・少年活動など様々な視点で多方面に紹介され高い評価を受けている。これまでに参加した児童は延べ732名、大人はその2倍を超えている。公民館・青少年育成会・学校・保護者・交通安全推進協議会・自転車協会など、地域の様々な人々の連携と支援によって大きな成果を上げている。



荒川上流の永平寺町上吉野に向かう15kmの間に設定した8つのポイントを自転車で巡るこの活動は、8月の猛暑の中で行われるため、近年は調査地点を減らしたりバスを利用したりするなど、子どもたちの健康・安全を配慮した計画で実施している。

昨年30回を記念して発刊された報告書からは、これまでの貴重な調査結果や子どもたちの感想と共に、携わった方々のご苦労や充実感が伝わってくる。

(2) 荒川サミット ～広がりを求め未来につなぐ～

旭地区の呼びかけにより、荒川流域の7つの地区(旭、和田、日之出、円山、岡保、東藤島、永平寺町吉野)が地域を越えて、世代を超えて荒川の環境を見直し、地域全体の環境に対して関心を深めることを目的として



平成10年から年1回行われている。

主に旭公民館を会場として、各地区の代表者が集まり、荒川の環境に

関する各地区の実践発表や有識者の講演会などを行い流域住民の意識向上を図っている。

(3) 旭っ子自主活動 ～放課後子ども教室推進事業～

この事業は、週末の子どもたちの安全・安心な活動拠点(居場所)を設け、地域の人々の協力を得て、子どもたちに学習や様々な体験・交流活動の機会を定期的に提供し、地域の活性化や子どもの安心できる環境づくりを推進することを目的に平成5年に始まった。

平成14年に学校が完全週5日制になってからは、毎月第2・第4土曜日の午前中に公民館で実施している。

平成30年度は、硬筆習字、珠算、折り紙、華道、かるた、盆点前、かんたん料理&お菓子づくり、オリジナル小物、空手の9教室が開かれた。指導者は地域のボランティアの方々に、毎回多くの子どもたちが学校では体験できない活動を楽しんでいる。



(4) 伝統のまちづくり事業 ～ケヤキフェスタ～

地域活性化を目指したまちづくり事業の秋祭りは平成元年より「秋色ときめきハートランドまつり」として始まり、毎年秋の土・日に、地区のシンボルであるケヤキ並木が美しい駅東大通りを会場に開催されてきた。

平成13年からは「ケヤキわくわくストリート大フェスティバル」として継続され、例年50近い模擬店テントや、特設ステージでの子どもたちや講座生の発表などで大いに盛り上がりを見せている。



また、年によっていろいろなテーマを設定して内容を工夫し、平成25年度には、マスコットキャラクターの「ケヤッキー」が公募により誕生、平成30年度は「ケヤキ夢灯り」と題してケヤキ並木をイルミネーションで飾り、木々をライトアップして福井しあわせ元気国体を盛り上げた。



4 終わりに

どの地区にあっても他に自慢したい「お宝」というものがある。平成27年度発行の「旭区史」には、「旭地区は誇り高い地区である。時代を動かしリードした多くの逸材の輩出は、他に例を見ないであろう」と述べられている。これが誇張ではないことは、旭地区に開かれた福井藩最初の学問所「正義堂」(藩校「明道館」開設の36年前)に始まり、幕末・維新、その後に活躍した先人達をたどればわかる。

旭地区を語る時、“歴史”“人物”抜きに語ることはできない。そこには今につながる伝統、文化が息づいている。これからも、この素晴らしい財産を、次世代を担う子どもたちに継承し、歴史や文化を活用した取組を続けていきたい。

公民館を拠点に実施される事業のひとつひとつが、地域の人々の協力と熱意で長く継続され、大きな成果を上げていることを強く感じます。歴史と伝統を大切にしつつ、北陸新幹線福井駅開業を控えていますますます活気あふれる地域となっていくことを心より願っています。